



校長室より No.24

～ We love 篠南 ～



□ 「コスモスの里からの訪問者」

10月8日(月)体育の日に、高知県越知町の女性が来校されました。「組合立の学校はどこにあるんだろう?」「日本一長い名前の学校はどんな学校なんだろう?」そんな思いから、訪ねて来られました。

校舎を案内すると、木造の美しい校舎に感心しきりの様子でした。「子どもたちは、この篠南の里で、地域に支えられ、守られながら、高知県と愛媛県、小学生と中学生が共に助け合い、切磋琢磨しながら、明るく元気いっぱい活動しているんですよ。」と、学校の様子を話すと、涙を流しながら、「来て本当によかった。」「子どもたちの笑顔が、いつまでもいつまでも続くことを願っています。」とおっしゃり、帰途につかれました。

高知県高岡郡越知町は、毎年『コスモスマつり』でにぎわいます。約150万本のコスモスが咲き誇るコスモスの里からの思いがけない訪問者に、改めて、篠山小中学校のすばらしさを実感するとともに、コスモスの花に癒されるような爽やかな気持ちになりました。



□ 「県境を越えた友情のシンボル」

企画段階(没になるかも)ではありますが、テレビ番組がロケにやってくるというので、「長い校名になった経緯」「校名が高知県から始まる理由」など、ADさんから出された宿題について調べてみました。

昭和4年、山北にあった和田第3小学校を合併し、1校2県の校区になったときが日本一長い名前になる始まりだと思われます。その頃、篠川を挟んで、和田第3小学校と正木小学校の2校がありましたが、丁度、同時期に校舎改築の声が上がりました。県は違っていても、篠川を挟んで一つの生活圈をつくっていたため、「合同にして一つにすれば適当な大きさの学校になり、教育効果も上がる。予土の提携も親密になる。」という考えで一致し、現在の校地に高知県と愛媛県の子どもが共に学ぶ学校が新築されたのです。昭和5年5月4日が開校記念日となっています。やがて、日本一長い名前になる学校は、『県境を越えた友情のシンボル』として誕生したのです。(一本松町史より)



一本松中学校正木分校として発足した中学校は、昭和24年、一本松中学校から独立して、高知県宿毛町との組合立となり、『高知県幡多郡宿毛町愛媛県南宇和郡一本松村組合立篠山中学校』という長い名前になりました。その後昭和27年、篠山小中学校組合が発足し、『高知県幡多郡宿毛町愛媛県南宇和郡一本松村篠山小中学校組合立篠山(小)中学校』という日本一長い名前の学校となったのです。高知県から始まることについては、【市・町・村の条件により、村よりも町、町よりも市を先にした】が有力ではないかと思われそうですが、明確な理由は分かりませんでした。御存じの方がおられましたら、学校まで御一報ください。よろしくお願いたします。

この企画は没になる可能性が高いのですが、もしも放送されるようになりましたら、連絡いたします。